

大船渡だより

発行人 諏訪榮治郎
編集 スタッフ一岡



「被災地に寄り添い続ける」

上記の表題はカトリック新聞2014年3月16日号のトップニュースでした。2月に開催された臨時司教総会にて日本のカトリック司教団は、これまでの全国的規模での復興支援活動をさらに3年間継続することを決議した、との報告でした。そのお陰で大船渡ベースはこれからも被災各地で復興支援活動を続けていくことができます。このたよりを通して寄り添いの具体的な行動を届けたいと思います。皆さんも、被災地に寄り添う思いを形にしてみたいはいかがですか？(ベース長 エドガル)

大船渡市末崎町 3仮設合同炊き出しと窓ふき

3月24日(月)大阪女学院の皆様と共に末崎町の山岸仮設住宅(58戸)・小中井仮設住宅(27戸)・大豆沢仮設住宅(24戸)の3つの仮設住宅で炊き出しと窓ふきを行いました。ボランティアさんには①炊き出し班・②山岸仮設窓ふき隊・③小中井仮設窓ふき隊・④大豆沢仮設窓ふき隊の4つの班に分かれて頂きました。



炊き出しメニュー
おにぎり
漬物・豚汁

炊き出し班は、とん汁・おにぎり・漬物の炊き出し準備を山岸仮設婦人会の皆様と共にさせて頂きました。総勢で150人分の炊き出しなので、大きな鍋を借りての炊き出しでした。炊き出し班のボランティアさんたちは、包丁の扱いに慣れている方ばかりだったので婦人部の方も驚かされていました。地域の料理のお話などを伺いながら調理を進めました。

窓ふき班は、各仮設に分かれて一軒一軒声をかけながら窓ふきを進めていきました。普段外側の窓はなかなか掃除ができないからと皆さん喜んで下さいました。また、出会う人出会う人が温かく「ありがとう」や「寒い?大丈夫?」などの声をかけて下さり、こちらのこころも温くなる活動でした。



12時からは、各仮設の集会所や談話室をお借りして、入居の方と交流会兼昼食会でした。地域の状況や震災の時のお話などを伺いながら食事を共にさせて頂きました。気仙語が入りしっかりと話を伺えたかというところ6割くらいしか理解はできなかったですが、皆さんの明るい笑顔や話し方に、共に過ごさせてもらえたことに感謝の時間でした。参加したボランティアさんの感想で、「体を動かして活動するだけがボランティア活動ではなく、共に寄り添って過ごすこともボランティア活動なんだと学びました。」と話してくれました。ニーズの変化は、体力的な活動から寄り添って共に生活する活動に変わってきている時期です。このことを活動から理解して下さったことが嬉しかったです。



三鉄完全復旧

東日本大震災で被災し運休していた南リアス線、吉浜—釜石間(15キロ)は5日、北リアス線、田野畑—小本間(10.5キロ)は6日運行を再開し、三陸沿岸の公共交通の柱となる南北リアス線全107.6キロが完全復旧を果たしました。多彩なイベントが繰り広げられた沿線各駅には多くの住民が足を運び、津波で線路が流され、駅付近がガレキだらけになったあの日からの復活を信じ待ち続けた住民の歓迎の横断幕が大漁旗がはためく中、列車の汽笛がそれに応えて走り出しました。

春休みを利用して、ベースの活動に参加して下さった高校生達を紹介します!

大阪女学院中学高等学校

大阪から、バスをチャーターして24名で大船渡へ来て下さいました。毎年、春と夏にベースの活動に参加して下さっています。女子生徒だけですが、しっかりしている学生が多く、事前に学習会も開いて来て下さっているので、ベースのことを良くわかって活動に参加して下さっています。

参加した学生さんの声

「現地に来て初めて知ったことが多かった。伝え続けて、忘れないでいたい。」
「更地が多く、重機は動いているが復興は進んでいない。ボランティアに来た自分が南海トラフの時、避難できないようではダメだと思った。」

上智福岡高等学校

九州・福岡から、飛行機とバスを使って大船渡へ来て下さいました。初めての参加で、先生を含めて8名が参加。男子生徒だけの参加でした。

参加した学生さんの声

「見えるところが片付いたように見えても、土の中はまだ被災したままだった。」

チリ沖での地震と津波注意報

4月2日(水)地球を半周したチリ沖で8時46分に地震が発生しました。マグニチュード8.2という大きな地震でした。遠方での地震による津波は、到達するまでに時間がかかり、津波注意報の解除になるまでも時間がかかるのが特徴です。ハワイの観測所での津波の高さを確認した後に、津波注意報・到達予想時刻が発表されます。

日本での津波注意報は、翌3日の3時に発表されました。そして、4時30分に大船渡市は沿岸部の住民への避難勧告を発表しました。津波注意報と避難勧告が発表されるだろことは、1960年・2010年のチリ地震の経験から地域の人たちは予想しており、「準備しておいた方がよい。」と2日の内にアドバイスを受けていました。2日の夕のミーティングで、ボランティアさんには自分たちの荷物をまとめておいて、いつでも避難できるように準備してもらいました。大船渡市は、1960年のチリ地震でベース近くの八軒街の所まで津波が浸水した経験がある街です。ベースの所まで津波が来る可能性があるので注意をしてスタッフはベースで待機し、3時から情報に耳を傾けていました。避難グッズもそろえて、車を準備していつでも避難できるようにしていました。ここからが長かったです。解除になったのは3日の18時でした。その間、常にテレビやインターネットで情報を確認して過ごしていました。ボランティアさんは、自分たちが揺れを感じた後の津波ではなかったため、津波への恐怖よりも3日の8時22分に発生したマグニチュード5.2 震度4の地震の方に恐怖を感じていました。今回は、津波による浸水被害はなかったのですが、津波が40cm起こると養殖イカダはダメになってしまいます。漁業の方にも今回は大きな影響はなかったようなので良かったです。日本の中で被害が無くても、チリでは建物の下敷きになり亡くなられた方がいらっしゃいます。また、女性刑務所から女性受刑者が300人脱走したとのニュースもありました。亡くなられた方のご冥福と、脱走してしまった人々が早く捕まり、市民の方々が平穏に暮らせるようになる事をお祈りいたします。



震災から
3年1ヶ月...

ボランティア登録者数 男性404人、女性692人：合計1096人
3月16日～4月15日 ボランティア数 男性：22名、女性：51名

3月・4月 地域の変化 活動紹介

3月

- 23日：大阪女学院中学高等学校 24名 活動に参加
三陸道路 陸前高田インターまで拡張 運用開始
- 24日：山岸仮設・大豆沢仮設・小中井仮設 合同炊き出しと窓ふき
陸前高田市 盛り土用土を運ぶベルトコンベア運転開始
- 28日：サンマチ親睦会@三陸鉄道
⇒今年もサンマチを成功させるために動き始めています。
上智福岡高等学校 8名 活動に参加
- 29日：ベースを利用して地ノ森2区の総会がありました。

4月

- 2日：チリ沖でM8.2の地震発生
- 3日：3時 津波注意報発表
4時30分 大船渡市 避難勧告発令
8時22分 大船渡市三陸町を震源とするM5.3の地震発生 震度4
18時 津波注意報解除
- 5日：三陸鉄道 南リアス線 大船渡市盛駅から釜石市釜石駅まで開通
釜石まで車で約1時間、一日9本運行しています。
- 6日：三陸鉄道 北リアス線 宮古市宮古駅から久慈市久慈駅まで開通

カリタス大船渡ベース 地ノ森いこいの家

電話・FAX：0192-47-4737 (9:00～18:00)
急用時：080-2440-5610

- 〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町地ノ森43-2
- Eメール：ofunatobase@gmail.com
- ブログURL：http://ameblo.jp/ofunatobase/